

# 日置市における総合評価方式の取り組みについて

平成20年12月24日：鹿児島県日置市財政管財課

## 1、はじめに

日置市は平成17年5月1日、いわゆる平成の大合併により4つの町が合併して誕生した人口約52,300人の地方都市であり、鹿児島県の西部、薩摩半島のほぼ中央に位置し、東は県都鹿児島市に、北はいちき串木野市と薩摩川内市に、南は南さつま市に隣接し、また、西は日本三大砂丘の一つ、白砂青松の吹上浜と東シナ海に面しています。日置市は「妙円寺詣り」や「流鏝馬」、「せつぺとべ」に代表される歴史的な伝統行事と薩摩焼や優れた泉質を誇る温泉など、古の情緒と安らぎに満ちた貴重な資源を数多く有しています。これらの資源を活用しながら、「**地理的特性と歴史や自然との調和を生かしたふれあいあふれる健やかな都市づくり**」をめざしています。



## 2、総合評価方式の導入経緯

日置市の入札は、合併当初、主に「指名競争入札」（一定額以上は公募型指名競争入札）により実施していましたが、当市の職員まで巻き込んだ談合事件をきっかけに、入札制度の見直しを行い、「受注希望型指名競争入札」を導入するとともに、格付等級数を減らし各等級の格付業者数を増やすことで受注意欲のある業者への受注機会を増やし、公平性・透明性の向上、適正な競争性を図ってきました。

しかし、市の厳しい財政状況により、公共投資が減少する中、最低制限価格付近での受注が散見されるようになり、工事の品質の低下とともに地元建設業界の疲弊が懸念されることから、平成19年度から総合評価方式（簡易型）の試行を開始し、同年度1件、今年度も1件実施したところです。

## 3、総合評価方式の導入結果

総合評価方式については、県の実績を参考に導入を試みましたが、契約規則の改正や試行要領の制定に始まり、対象工事の選定、入札までのスケジュールの検討、評価項目や評価基準の検討・審査、技術資料の評価など、通常の入札とは比較にならない作業量が発生



妙円寺詣り（10月）  
（鹿児島県三大行事のひとつ）



薩摩焼  
(11月には美山窯元祭りが開催される)

しました。また、落札者決定基準を定めるときなどの学識経験者の意見聴取をどのように行うかという問題もありました。

このため、県の担当者の協力をいただきながら事務手続きを進めるとともに、対象工事の担当職員と議論を重ねながら評価項目・評価基準を設定し、さらに学識経験者の意見聴取は県の総合評価技術委員会を利用させていただくことにより、無事に入札を終えることができました。

しかしながら、工事執行決定から入札が完了するまで相当の期間を要すること、建設業者の総合評価方式に対する理解度にバラツキがあること、担当職員への負担が増えることなどから、本格的な導入については踏み切れない状況です。

#### **4、最後に**

これまでの2回の試行においては、当市の土木のAクラスを対象に簡易型により実施してきましたが、今後は、担当職員や建設業者への負担を軽減するために、技術提案（簡易な施工計画）を求めない「特別簡易型」についても実施を検討していきたいと考えています。

総合評価方式についてはまだ試行段階ですが、徐々に技術評価点を高く設定することにより技術力や施工体制の整った建設業者が適正な価格で受注できるようにすることや、最低制限価格の見直しなども進め、公共工事の品質確保と共に地元優良企業の健全な育成を図って参りたいと考えています。